

「2019年総会・懇親会」開催

令和元年11月9日、としま産業振興プラザ THE BIZ 多目的ホールで、近隣支部の支部長・幹事長の皆さまも含め70名が参加し、豊島区地域支部2019年総会・懇親会を開催しました。総会では、白砂支部長が議長となり、2019年度事業報告及び収支決算報告並びに監査報告、2020年度事業計画(案)及び予算(案)が審議され、全会一致で了承されました。

また、役員改選が行われ、白砂正人支部長と後藤孝男監査委員・小野幸宏監査委員が選任され、21名の役員の再任指名と、新たな常任幹事として、井上裕貴氏、澤山虎雄氏、長谷川 悦子氏、西野史朗氏、芝崎拓氏の5名が指名されました。

総会後のトークイベントでは、明治大学体育会OBレジェンドトーク「1964東京オリンピックの思い出と2020東京オリンピック・パラリンピックへの期待」と題



して、柳田好史副支部長がコーディネーターとなり、勝浦信男校友(相撲部OB、1958年卒)と柴田泰孝校友(ウエイトリフティング部OB、1962年卒)をコメントイターとして、体育



会らしい学生生活の興味深い思い出話や、1964東京オリンピックなどにまつわる明治大学出身者の活躍、2020東京オリンピック・パラリンピックにおける様々な人たちの多様なスポーツへの参加、日本選手団の30個のメダル獲得への期待などが披露されました。続いて、体育会ゴルフ部女子の監督を務める長尾睦子副支部長から、全国大学女子対抗戦での創部初の優勝、及び10月20日に和泉キャンパスに設置されているゴルフレンジでのプロゴルフアのタイガー・ウッズ氏との交流・デモンストレーションとレッスンの開催の報告がありました。懇親会は、三浦昭生シニアフェローの開会あいさつ、豊島区長高野之夫様、三森勲東京都北部支部長の来賓あいさつ、東京商工会議所豊島支部顧問・名誉会長の鈴木正美校友の乾杯のご発声により開会し、応援団指導班・

チアリーディング部による応援モデルの演技とともに、最後は参加者全員が輪になってスクラムを組んで校歌を熱唱し、兼村仁副幹事長の三本締めで閉会しました。【報告：幹事長 猪瀬典夫】

「明立戦応援&豊島立教会との懇親会」開催

令和元年10月26日、9回目の開催となる東京六大学野球秋季リーグ戦対立教大一回戦の応援、及び明治が当番校となって豊島立教会との懇親会「勝つても、負けても、紫友会」を開催しました。



試合は、初回に明治が5点を先取したものの、その後得点できず、延長十二回5対5の引き分けに終わりました。その後、池袋に戻って、豊島立教会との懇親会を開催し、明治24名・立教18名の合計42名が参加し、お互いの健闘を称え合いました。春秋連覇を目指してのリーグ戦でしたが、最終結果も5位で終戦しました。次シーズンでの明治の奮起に期待し、神宮球場で「白雲なびく駿河台〜♪」を歌い、応援しましょう。

【報告：幹事長 猪瀬典夫】

●協力のお願

身近な社会貢献活動

三浦昭生シニアフェローを中心に、使用済み切手・書き損じハガキを豊島区民社会福祉協議会へ寄付、ベルマークを豊島区教育委員会へ寄付を行っています。毎月開催している役員会で収集とりまとめしていますので、校友の皆さんも収集活動にご協力の上、地域支部役員へお届け下さるようお願い申し上げます。

●お知らせ

60歳以上の校友などを対象に2カ月に1回のペースで開催している「ミレイ会」は、平成29年10月以来13回開催してきました。13回目以降は、山本守敏校友に幹事を担当していただくことになりました。今後とも、皆さまのご参加をお待ちしています。

―校友慶弔のお知らせ―

♥ご結婚おめでとうございます

柳田直毅さん(2008年政経卒)

長橋健一さん(2009年政経卒)

■訃報

杉本正太郎様(1955年政経卒)

三浦美千代様(三浦昭生シニアフェロー奥様)

※校友の皆さま・配偶者の慶弔をお教え願います。

明治大学校友会豊島区地域支部会報

豊島支部 NEWS

2019年 第63号

新年のご挨拶

新年明けましておめでとう御座います。昨年は憲政史上初めてとなる天皇の退位と即位があり、元号も「平成」から「令和」になりました。四月三十日の「退位礼正殿の儀」に始まり十月二十二日の「即位礼正殿の儀」を以って内外にその皇位継承を示されました。

また、豊島区については、「東アジア文 化都市2019豊島」の1年間に及ぶ各種行事・イベントが行われるとともに、池袋西口公園GLOBALRINGやHaraza池袋などの完成、IKEBUSの運行など、大きくまちづくりが動いた年になりました。

昨年のワールドカップラグビーに続き、本年は東京オリンピック・パラリンピックの開催など、日常におけるグローバル化を身近に感じるとともに、スポーツ・文化などを通じた平和を希求し、国民生活が安定するように念願するものです。

しかしながら、経済は一昨年からの米中の関税問題が解決せず今年まで続き企業各社の業績は昨年度に比べて弱含みの展開が予想されるとともに、消費税の10%への増税などによる景気の不安要素もあります。



その様な経済の状況にマイナスの要因になりそうなのが近年、毎年出来る自然災害です。昨年は特に九月の台風十五号による千葉県での風水害、十月の台風十九号による東日本の大

中小河川の氾濫による農林水産業への被害は惨憺たる状況でした。今までは地震被害を中心に対策重視が叫ばれて来ましたが、今後は風水害にもより一層の手厚い対策が必要とされるでしょう。

この様な社会・自然情勢の中で我が豊島区地域支部は今まで以上にその活動の歩みを着実に且つ「前へ」の精神をより一層高めていくことが求められると思います。

当地域支部の三大会事、二月の「初春交流会」、八月の「暑気払い」十一月の「総会・懇親会」を中心として「若手及び女性の皆さんの」参加を最重要目標として推進して参る所存です。

当地域支部所属の校友の皆さんに各人の地域にお住いの「若手・女性」の皆さんへの自宅訪問等を計画して行きたいと思えます。また、より良いアイデアが有りましたらご教示をお願い致します。また、「ミレイ会」は二か月に一回開催されていますが、毎回十数名の方々の参

加を頂いております。参加資格は一応六十歳以上となっておりますが参加希望の方は年齢を問いませんのでぜひ参加を頂きフレッシュな意見を交換させて頂きたいと思えます。

「明治は一つ」の旗印のもと校友の皆様には毎月一回の役員会を通じ地域支部のより一層の親睦、地域貢献に対しご協力を頂いていますが現状ではその歩みは遅々として進まず誠に申し訳なく思うところです。もう少し、地域に対して協力できる何かを見つけてその存在意義を示して行きたいと思えます。

豊島区地域支部の活動は老・壮・青の校友の皆様の支えが有り、初めて大学への貢献、地域活動への貢献が可能になると確信いたします。

今後とも「着実に」「確実に」「をモットーに」「明るく」「仲良く」「楽しい」地域社会を築くべく校友の皆様のご協力・ご支援を頂きます様切にお願い申し上げます。本年も良き一年となります様ご校友の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

一月元旦

明治大学校友会豊島区地域支部

支部長 白砂正人



明治魂を伝える

昭和五十六年短大経済科卒

長谷川 悦子

明治大学短期大学に憧れて入学して早40年。昨年、校友会豊島区地域支部からの会報とともに同封されていた「暑気払い」のチラシが楽しそうだったので、一度、明治の集まりに出てみたい！と思い初参加いたしました。

私が明短に入学した頃(昭和50年代)は女子短大全盛期で、そのなかでも明短は法律科・経済科の社会科学系学科のみを設置する特色ある短大でした。明短が閉学すると聞いた時はびっくりすると同時に淋しくもあり、平成18年3

月に行われた『明短閉学記念のつどい』に出席しました。アカデミーホールでの厳粛な雰囲気の中、淡々と式次第が進むうちに「明短は時代の役割を終えたのだなあ」と実感し、数十年前の学生生活を思い出しながらの感慨深い式典となりました。今年はずいぶん短期大学設置から七十年にあたります。

私は豊島区西池袋で生まれ、中学・高校は目白にある川村学園に通っていました。そのままエスカレーター式で付属短大に進学するつもりでしたが、高1の夏に当時明大3年だった兄(昭和五十三年政経卒)から明短を熱く勧められ、紫紺の集いや六大学野球優勝提灯行列に連れて行ってもらったりしたことで憧れが大きくなり外部受験を決めました。同級生がほとんど内部進学するなか明短一本に絞って受験勉強を続け、昭和54年3月5日、短大校舎前の合格発表掲示板に自分の受験番号があつたときの喜びは今も忘れられません。

4月、晴れて明短生となった日から夢のような学生生活が始まりました。入学式直後に学部先輩の方に「部室あるよ、コンパ



多いよ、経済学も教えるよ」と勧誘されるまま、当時記念館地下のもぐら横丁と言われたところにあつた「経済事情研究部(経事研)」に入部しました。(とても驚いたことですが現在の明治大学柳谷理事長は経事研OBの方です)春の新歓行事や冬の歓送旅行、3年の先輩方の駿台祭研究発表のための実態調査を兼ねた夏合宿、神宮での野球応



援・ラグビー観戦、和泉祭での短大支部としての研究発表等々、歴史ある記念館で明大校歌や応援歌、そして今も大好きな学生歌「都に匂う花の雲」に彩られ明短生として本当に充実した2年間を過ごしました。

卒業後は損害保険会社に入社し、そ

こでも明治大学OBの職域「紫紺会」にお声がけいただき、明治のつながりを感じることができ場に参加することができました。

その後、専業主婦生活を経て何か資格取得にチャレンジしたいと考えた時、短大2年次に独禁法・消費者問題がご専門だった故木元錦哉法学部教授の「経済法ゼミ」に所属していたことがモチベーションとなり、平成14年「消費生活アドバイザー」「消費生活専門相談員」の資格を取得しました。行政機関等でNPO法人設立認証関係や個人情報保護法質問ダイヤルの相談員などを経て、現在は法テラス東京にて法的トラブル等でお困りの方への情報提供専門職員として勤務しています。

今回、思いもかけずこのような機会を頂戴し、あらためて振り返ってみると「明治が大好き」「明短で良かった！」ということに尽きると思います。そして明短はなくなりましたが明短卒業生として明治大学校友会豊島区地域支部に参加できることに感謝し、少しでもお役に立てることがあればと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

企業紹介

社労士・行政書士オフィス

「メイクタイム」

西野史朗



一九八七年に明治高校、一九九一年に経営学部を卒業しました西野史朗と申します。年齢50過ぎの完全な中高年ですが、校友会ではピチピチの新入会員です、よろしくお願ひします。

二〇一九年6月末で、約三十年勤務した朝日新聞社を早期退職し、10月に東池袋で社会保険労務士、行政書士の個人事務所を開設しました。事務所を開設したばかりで、まだ業務の実績はありませんが、今は将来に向けての種まきの時期と考え、様々な勉強会への参加や多くの方との交流など、地道に

活動しています。

ところで、会社員生活も後半に差し掛かったこの歳で、何故あえて不安定な独立開業の道を選択したのかには、理由があります。それは、二〇一七年夏、自身の不注意で起こした自損交通事故がきっかけでした。

趣味のオートバイでツーリング中、雨の高速道路で運転操作を誤り転倒し、側壁に激突してしまいました。重傷を負った私は旅先の救急病院に搬送され、そのまま2か月超の入院生活を送りました。意識が戻ったのは事故から1か月後のこと、その間に生死をさまよったと後に聞きました。退院後は、懸命のリハビリで社会復帰することができたのですが、身体に負ったダメージを思うと、今こうして生きていくこと、大きな障害が残らなかったことを、奇跡と思わずにはいられません。

医師は「助かったのはあなたの生命力とあなたの幸運のおかげ」と私に言いました。しかし私は、家族の看護、そして多くの回りの方々の支えが無ければ復帰することはできなかったと感謝しています。当時は心も体も本当に折れていました。

そして、この交通事故が人生の転機

となり、復帰後は、感謝の気持ちを社会貢献でお返ししたいと考えるようになりました。それを実現するため、会社員時代に取得した資格を活かし、独立開業することを決めました。当事務所では、次の業務を当面の柱として取り組んで行くつもりです。

- ・ 障害者サポート業務
- ・ 障害年金の申請代行、障害福祉サービス事業の運営サポートなど
- ・ 相続サポート業務
- ・ 相続相談、遺言書、遺産分割協議書など



(※明治高校同窓会)

業務の方向は、走りながら自然と定まってくらうと思っています。今

は、交通事故体験を糧に、困っている方へのサポートを業務の中心にしたいと思っています。

実務経験なし、準備不足、社会貢献への思い先行で開業まで走ってきました。現在は、池袋年金事務所で年金相談員として業務を習得しつつ、相続相談会でも相談員としての活動を始めました。どちらも本業のスキルアップが目的で始めたものです。

交通事故の後遺症で、身体に少し不自由が残りましたが、生きていることに感謝し、面白い人生だったと満足して死ねれば本望です。こんな私ですが、よろしくお願ひします。職場も住まいも豊島区、これからは地元を根を下ろして生きて行くつもりです。

最後に私の座右の銘で締めさせていただきます。今の私の心境そのものです。

一生勉強 一生青春

相田みつを

社労士・行政書士オフィスメイクタイム
〒170013 東京都豊島区東池袋二一六〇二
池袋パークハイツ2階

MOBILE 070-2188-2627

TEL 03-6403-4551 FAX 03-6737-1525

mailto:info@ficemaketime.com